

☆ 【狂俳】ってご存じですか？ ☆ 一宮市狂俳壇連盟

「一宮市狂俳壇連盟」の例会は、毎月第2土曜日の午後1時から葉栗公民館で開催されています。7月13日（土）午後1時から開催された「七夕まつり狂俳大会」は、一宮七夕まつり協賛事業という事で一宮市長賞・一宮市議会議長賞など、優秀句受賞者に対し賞状・楯がそれぞれ贈呈されました。

【本日受賞された優秀句】

題「荒磯」 逆巻く怒涛 岩をかむ
題「夕立」 雲行き怪し 農終う（のうしまう）



ところで狂俳ってどうやって作るの？

俳句なら誰でも知っていると思いますが、狂俳とはあまり聞きなれない言葉です。俳句は季語があり、五七五の17文字でその季語を生かした句を作ります。しかし、狂俳は季語にとらわれずユーモアを交えて五七又は七五のわずか12文字で表現する言葉遊びです。

＜狂俳作りのルール＞の3原則

第1は、題の文字は句の中へ一字でも詠（よ）み込まないこと。

第2は、題に対して七・五か五・七の十二文字で収める。

第3は、止め字は仮名の動詞で止めること。漢字止めは避ける。

また、句を作る時の心得として、説明句は単に説明ではなく行動を詠むようにし、心に浮かんだ工夫や思い付きを大事にするように心がけると良い作品になるようです。

「狂俳」は、江戸時代初期に伊勢の俳人三浦樽良（ちよら）によって考案され受け継がれてきたと言われています。平成3年に浅井と葉栗を合体し「一宮市狂俳壇連盟」が発足しました。その後、一宮市協賛の「七夕まつり狂俳大会」や「芸術祭狂俳大会」を葉栗公民館で開催するようになりました。伝承文芸を若い世代に継承していきたいと頑張っています。興味のある方はご連絡をお待ちしております。問い合わせ先：一宮市生涯学習課 ☎0586-85-7077

☆ 夏を楽しむ『天王祭り』 ☆ 坂手神社（佐千原）

7月13日（土）坂手神社（佐千原）において、天王祭りが行われました。町内役員を中心に佐千原の各団体が協力して早朝から準備を進め、午前中にはほぼ準備を完了しました。午後4時から月次祭、そして天王祭りの式典が行われ、あとはお祭り開始時刻の午後6時を待つばかりとなりました。

しかし、午後6時を待ちきれず、30分前には多くの町民が集まり予定を早めてお祭りが開始されました。

今年度は新しい試みとして宮司の賛同を得て、拝殿の中で各種ゲームを行いました。ゲームは4種類「輪投げ」「手掴みガチャガチャ」「風船ヨーヨー釣り」「スーパーボールすくい」です。さらにアイスクリームが無料で提供され、拝殿の中は大勢の町民の熱気や歓声であふれていました。

当日の天気が心配されていましたが、皆さんの熱意が通じたのか雨の影響もなく、無事に終わることができました。お疲れ様でした。

